

欧州左翼党 オスカー・ラフォンテーヌほか(2016. 4. 4)

破滅寸前のヨーロッパ

翻訳：長谷川羽衣子（2016年10月30日）

Europe Before the Crash, by Oskar Lafontaine et al. (2016.4.4)

(In the Homepage of “Quantitative Easing for PEOPLE, A Rescue Plan for the Eurozone”)

http://www.qe4people.eu/europe_before_the_crash_fabio_masi_fassina_lafontaine?locale=en

欧州中央銀行は新しいバブルを作り出す代わりに、投資に資金を提供するか、低所得世帯への所得転移を行うことによって、実体経済を刺激するべきである。

この記事は、ファビオ・デ・マッシ、ステファノ・ファッシーナ、そしてオスカー・ラフォンテーヌが 2016年4月4日、最初にドイツのフランクフルト新聞(FAZ)に、次いで2016年4月11日イタリアのコリエーレ・デラ・セラ新聞に発表したものである。

次なる金融危機が迫っている。金融市場の規制緩和、年金制度の民営化、社会的格差の拡大、そして国の歳出の削減によって、ますます多くの資金が金融市場に押し出されている。それは、実体経済への需要と投資が欠如しているからである。

2007年の経済・金融危機から、欧州中央銀行(ECB)はヨーロッパという病人に対し、低金利政策という人工呼吸を試みて来た。しかしその一方で、国の歳出、賃金、年金の削減によって、この病人の血を流し続けてきたのである。

欧州中央銀行による低金利政策は、結局のところ実体経済に行きわたらなかった。なぜならゼロ金利にも関わらず、企業や政府が投資をしなかったからである。しかし一方で、株価を押し上げ、利回りを高めた。この金融政策が富裕層をますます富ませたことは、例えばイングランド銀行による調査など多くの研究から明らかである。

今や、不都合な真実に向き合うべき時だ。次の金融危機が来れば、中央銀行は完全に万策尽きるだろう。テロリズムへの資金提供を口実に、現金引き出し制限に関する論争が実際に行われているが、それは中央銀行がどうしていいのかわからないからだ。

「欧州中央銀行の金融政策は非合理的だ」

民間銀行の欧州中央銀行への預け金に対するマイナス金利は、銀行が貸し出しを増やす後押しになっていない。というのも、企業が積極的に投資しないからである。それゆえ今度は、EUの人々に対してタンス預金しているお金を強制的に預金させ、銀行が負担していた懲罰的な低金利を預金者に押しつけることを許し、こうして人々の消費を強制するような政策を、とらざるを得ないことになるかもしれない。このような金融政策は非合理的であり、法的な預金保証に対する信頼を損ない、人々を銀行への取り付け騒ぎへと駆り立てる危険がある。

金融政策は、財政政策のサポートがなければ上手く機能しない。しかしながら、多くのEU加盟国は財政協定によって、八方塞がりの状態を強いられている。加えて、それらの国々は財政出動の余地も限られている。なぜなら、成長を妨げる予算削減と、銀行の救済、そして不十分な資産課税によって、これらの国々の債務がますます膨らんだからである。

欧州中央銀行はこれらの国々が行う公共投資に資金を提供することができるはずだ

従って、欧州中央銀行はやり方を変えるべきだ。金融バブルにではなく、投資に資金を供給するべきだ。欧州中央銀行は民間銀行や富裕層から証券を買って金融市場により多くの資金を注ぎ込むのをやめて、経済を刺激するべきなのである。

マリオ・ドラギ欧州中央銀行総裁は、公共投資に資金を供給できるはずである。物価安定目標を考慮しながらも、例えば、異常な若年失業率が改善するまでは、実体経済に資金を注ぎこむことができるはずだ。それによって、民間投資も促進されるだろう。将来のために今すぐ投資が必要な、教育、研究、住宅供給、そしてエネルギー供給の分散化などのサービスは、どれ程長く放置されて来ただろうか。これらの間違った政策措置が、移民危機として大きく跳ね返って来ているのである（訳注：移民にこれ以上雇用やサービスを奪われることを恐れ、各国で移民排斥の運動が起こったり、難民排斥を掲げた極右政党が台頭するなどの現象が起きている）。

明らかに、欧州中央銀行は、EU条約とドイツ連邦銀行が定めた政府への財政ファイナンスの禁止原則を無視するべきだろう。結局のところ、なぜ銀行への資金供給が良くて、政府への資金供給が悪いとされるのか、理由は定かではない。スペインの不動産危機や金融市場の崩壊は、銀行が政府よりも賢く資金を扱えるわけではないことを示している。

欧州中央銀行はまた、ボタンを押すだけで、低所得世帯の預金口座にお金を振り込むことができる。この措置は、EU条約とも矛盾しない。これは新自由主義の経済学者であるミルトン・フリードマンも提唱したアイデアなのだ。フリードマンは自身の金融理論の中で、中央銀行は全住民に対してヘリコプターからお金をばらまくことさえできる、という比喻を用いている。しかしながら、消費を刺激するために行う短命な現金投入よりも、投資への資金供給の方が、意味があるように思われる。

この提案が実行されることはないだろう。事実、チプラス政権が当初、賃金と年金をカットし経済をさらに悪化させるのを拒否したために、欧州中央銀行はギリシャへの資金供給を停止した。だからこそ、ノーベル経済学賞を受賞したジョセフ・スティグリッツと、元イングランド銀行総裁のマーヴィン・キングは、ユーロが瓦解すると予想しているのだ。

そのようになった場合には、各国政府が自国の民主的な金融政策を実施することになる。(訳注：それはユーロではなく自国の通貨を持つということの意味する)。そして、欧州通貨制度(EMS)の中で、自国通貨の切り下げ、切り上げをすることになる。もし、南ヨーロッパの中央銀行が公共投資プログラムに資金を提供する計画を立てれば、それは新通貨の相場変動圧力になるだろう。ユーロを抜けたこれらの国々はデンマークと共に、まず現在のEMSに加盟すれば、通貨投機の被害者となるのを避けられる。そのさい、参加している国々の中央銀行(欧州中央銀行を含む)は、為替レートが変動幅から外れないように介入することが求められる。そうなった場合には、ふだんの為替レートの調整はEU条約に従って、財務大臣が担うことになるだろう。

新しい欧州通貨制度と民主的でコントロールされた中央銀行によって、EU経済は再建され、ヨーロッパの民主主義を金融市場による破壊から守ることができるだろう。

オスカー・ラフォンテーヌは、ドイツの元財務大臣で、社会民主党と左翼党の党首だった。

ステファノー・マッシーナは、イタリアの元経済財務副大臣で、国際通貨基金(IMF)に勤めていたことがある。現在は、イタリア左翼党の下院議員である。

ファビオ・デマシ(ドイツ左翼党)は、欧州議会の経済通貨問題委員である。